



TITLE:

# 余次元2の主軌道をもつ球面の変換群 (同変ホモトピー論)

AUTHOR(S):

渡部, 剛

---

CITATION:

渡部, 剛. 余次元2の主軌道をもつ球面の変換群 (同変ホモトピー論). 数理解析研究所講究録 1978, 319: 107-114

ISSUE DATE:

1978-02

URL:

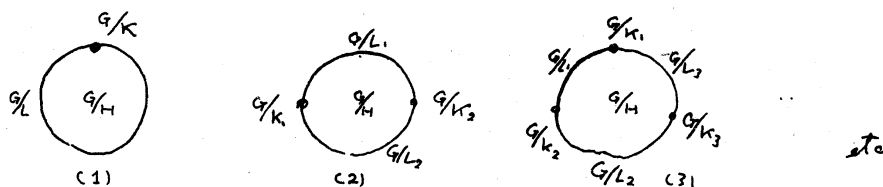
<http://hdl.handle.net/2433/103985>

RIGHT:

余次元 2 の主軌道をもつ球面の変換群

新潟大理 渡部 剛

$G$  は compact connected Lie group,  $M$  は  $n$  次元球面とし,  $G$  の  $M$  上への可微分作用で, effective 2-codimension 2 の principal orbit  $G/H$ , 少なくとも 2 つの singular orbit をもつものを考える. orbit の様子は orbit space  $M^* = M/G$  が 2 次元四角板から次のように図示できる.



$i \neq j$  により  $G/L_i = G/L_j$ ,  $G/K_i = G/K_j$  となつてもよい.  $\rho$  を related singular orbit  $G/K_i$  の個数とする.

次の結果が得られる.

THEOREM.  $(G, M)$  は上の性質をもつ変換群とする.  $\rho = 1$  ならば  $G = U(2)$ ,  $M = S^6$  で次の作用と 連続作用 である.

$U(2) \xrightarrow{\theta} SO(3)$  を kernel が  $U(2)$  の中心である準同型とすると  $SO(3)$  の  $\mathbb{R}^3$  への自然な作用から  $\theta$  で導かれる  $U(2)$  の  $\mathbb{R}^3$  への作用

と  $U(2)$  の  $\mathbb{R}^4 \cong \mathbb{C}^2$  への自然な作用との積により得られる  $U(2)$  の  $S^6 \subset \mathbb{R}^3 \times \mathbb{R}^4$  への作用.

REMARK 1. Theorem における  $U(2)$  の  $S^6$  への作用の orbit は  $H=1$ ,  $L=U(1) \times 1 = \left\{ \begin{pmatrix} \alpha & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \in U(2) \right\}$ ,  $K=U(1) \times U(1) = \left\{ \begin{pmatrix} \alpha & 0 \\ 0 & \beta \end{pmatrix} \in U(2) \right\}$  となる.

以下定理の証明の概略を示す. 次の事実が知られる ([B]<sub>1</sub>, [B]<sub>2</sub>, [U]).

$$(a) \quad M = M_1 \cup_f M_2$$

$M_1$  は  $G/L$  上の equivariant  $l$ -disk bundle,  $M_2$  は  $G/K$  上の equivariant  $k$ -disk bundle で,  $f: \partial M_1 \rightarrow \partial M_2$  は equivariant diffeomorphism である.

$$(b) \quad \dim G/K < \dim G/L.$$

(c)  $G/K$ ,  $G/L$  は simply connected, 従って  $K$ ,  $L$  は connected である.

(d)  $G/K$  における slice 表現から引き起こされる  $K$  の  $S^{k-1}$  への作用は codimension 1 の principal orbit  $\mathcal{K}_1 \subset 2$  と a singular orbits  $\mathcal{K}_1$ ,  $\mathcal{K}_2$  ( $L$ ,  $L_2$  は  $G$  における  $L$  と共役な  $K$  の subgroup) をもつ.

$$(e) \quad \chi(M) = \chi(G/K) + \chi(G/L) - \chi(\partial M_1) \quad (\chi(\cdot) \text{ は Euler characteristic}).$$

次の Lemma が得られる.

$$\text{LEMMA 1.} \quad n+1 = k+l \quad \text{で} \quad G/K = S^{l-1}, \quad G/L = S^{k-1}.$$

証明は  $M_0 = \partial M_1 \cong \partial M_2$  とおくと Mayer-Vietoris exact sequence により.

$$H^i(G/K) \oplus H^i(G/L) \rightarrow H^i(M_0) \quad \text{が} \quad 0 < i < n-1 \quad \text{で} \quad \text{同型, したがって} \quad \partial M_1 \cong S^{l-1} \times G/L$$

$$\partial M_2 \cong S^{k-1} \times G/K \quad (\text{spaces } X, Y \text{ について} \quad X \cong Y \text{ は } H^*(X; \mathbb{Z}) \cong H^*(Y; \mathbb{Z})$$

で表わす) が得られ, Lemma はこれよりすぐ出る.

以下  $G$  の  $M$  の作用は *almost effective* と仮定する。従って,  $G = T^r \times G_1 \times \cdots \times G_s$  ( $T^r$  は  $r$ -次元トーラス,  $G_i$  は simply connected simple Lie group) とおいてもよい。

LEMMA 2.  $n$  は even である。

証明.  $n$  が odd であると仮定する。  $l$  が odd である場合は  $[W]$  の結果により  $k/H = k/L_1 \times k/L_2$  となる。これより  $k$  が even, 従って  $n+1 = k+l$  は奇数。  
 $l$  が even であるとき  $[W]$  により次の 5 の場合が起り得る。

I.  $k/L_1 = k/L_2 = S^{k-l}$ ,  $k/H = k/L_1 \times k/L_2$

II.  $k/L_1 = k/L_2 = \text{pt.}$

III.  $K$  が  $S^{k-l}$  の作用の ineffective kernel の identity component  $\in W$  とする;  
 $K = K_1 \circ W$  (semi-direct product),  $H_1 = H_1 \circ W$ ,  $L_1 = L_1' \circ W$ .  $K_1$  は  $k/2$  の center が trivial な compact simple Lie group,  $H_1 = T^2$ ,  $L_1'$  は  $T^1 \times A_1$  と local isomorphic ( $L_1' \sim T^1 \times A_1$  と可成)。

IV.  $k=14, l=6, K_1 = A_1 \times C_3, H_1 \sim C_1 \times C_1 \times C_1, L_1' \sim C_1 \times C_2$ .

V.  $k=26, l=10, K_1 = F_4, H_1 = D_4, L_1' = B_4$ .

I は起り得ない。実際  $k=2l-2$  の fibre bundle  $k/L_1 = S^{l-2} \rightarrow k/H = S^{k-l} \rightarrow G/H = S^{l-1}$  となるのは  $l > 2$  より不可能。

II は起り得ない。III ~ V の場合は  $G, L$  が semi-simple となるが、III は不可能。 $G$  の  $G/H$  の自然な作用の ineffective kernel の identity component とする。 $W \cap Z$  が  $G$  の normal subgroup となり従って  $(W \cap Z)_0 = 1$ , 故に  $Z = K_1$  或  $Z = 1$ 。IV の場合  $Z = 1$  のとき

$G/K = S^5$  より  $G = D_3, A_2$ , 即ち  $G/L = S^{13}$  が transitive に作用し得る。  
 い。  $Z = K_1$  のとき,  $G = G' \times K_1$ ,  $G' = D_3, A_2$ ,  $K_1 \sim C_3$ .  $G$  は  $G/L = S^{13}$  が  
 transitive になり得ない。  $V$  と同様な議論で不可能。

$n$  が even とする。 (c) より  $r$  が even,  $l$  が odd と仮定する。  $n = 4r$  となる。  
 また  $n[W]$  の結果より  $K/H = K/L_1 \times K/L_2$ ,  $H \cong L_1 \cap L_2$  となり  $l = 2r+1$  とおく。  
 $r = 4r$ ,  $n = 6r$  が得られる。

$V \in G$  の  $G/L$  への自然な作用の ineffective kernel の identity component とする。  
 $G = G' \times V$ ,  $L_L = (L_1 \cap G') \circ V$ .

LEMMA 3.  $V$  の maximal torus  $T_V$  とする  $T_V \subset H$ .

証明.  $B$  は singular orbits の union とする。  $B \subset F(T_V, M)$  は明らか。

$B = F(T_V, M)$  と仮定すると  $B$  は  $4r$ -dim. integral homology sphere であり  $B - G/K$   
 は  $S^1 - \{pt\}$  上の  $G/L$  の fibre とする fibre bundle, 従って  $B - G/K \cong G/L \times \mathbb{R}^1$ .  
 両辺の homology を考え矛盾。 故に  $B \not\subset F(T_V, M)$  故に  $T_V \subset H$ .  $\square$

以下  $r > 2$  と仮定する。

LEMMA 4.  $U \in G$  の  $G/K$  への自然な作用の ineffective kernel の identity component とする  $U$  の  $K/L$  への自然な作用は non-transitive.

証明は  $[U]$  と  $\beta$  が  $\pi^{-1}(\beta)$  である。  $\pi$  の LEMMA より  $U$  の simple factor は  $\pi^{-1}(\beta) \cong \mathbb{R}^1$  となる。  $L'_1 = L_1 \cap G''$  とおく。  $\pi: F'' \cup G = G'' \times U$ .  
 $\pi$  のとき  $L'_1/H = L'_1/L_1 \cap H$  が示される。

PROPOSITION 5.  $G$  の  $G/L$  への自然な作用は almost effective である。

証明.  $G = G' \ltimes V = G' \ltimes U$  ( $V, U$  は  $G'$  の  $G'$  不変部分群).  $L_1 \subset K$  より  $V$

$\subset U$ . 従って  $G' \subset G$ .  $G' \cap L_1$  は  $L_1/H$  に transitive;  $S^{2r-1} = L_1/H = L_1 \cap G' / L_1 \cap G' \cap H$ .

従って  $\chi(L_1 \cap G') = \chi(L_1 \cap G' \cap H) + 1 = \chi(H \cap G') + 1$ .  $(H \cap G')_0 \times (H \cap V)_0$ .

は  $H$  の normal subgroup であり LEMMA 3 より  $\chi((H \cap G')_0 \times (H \cap V)_0) = \chi(H)$  である.

よって  $H = (H \cap G')_0 \times (H \cap V)_0$ . 従って  $L_1/H = G' \cap L_1 / G' \cap H \times V/H \cap V$

より  $V = H \cap V$  即ち  $V \subseteq H$ . 故に  $V = 1$  □

$G/L_1 = S^{4r-1}$  より  $G$  の可能な  $G$  は  $D_{4r}, A_{2r-1}, A_{2r-1} \times T^1, C_r, C_r \times T^1,$

$C_r \times C_1, B_4$  ( $r=4$ ) であり  $G/K = S^{2r-1}$  に transitive に作用しない.

...

$r=2, 1$  の場合を分ける.

$r=2$  のとき;  $G/L = S^7, G/K = S^4, L/H = S^3, K/H = S^3 \times S^3$ .

fibre bundle  $L/H \rightarrow G/H \rightarrow G/L$  より  $\pi_1(G/H) = \pi_2(G/H) = 1$ . 従って  $G$  は semi-

simple.  $G = G_1 \times \dots \times G_n$  とおくと  $\chi G = \chi K$  より  $K = K_1 \times \dots \times K_n$  ( $K_i \subseteq G_i$  であり  $\chi K_i = \chi G_i$ ).

$G$  の  $G/L$  への自然な作用の ineffective kernel の

identity component は  $G_{n+1} \times \dots \times G_n$  であり  $K=1$  である.  $U$

は  $G$  の  $G/K$  への自然な作用の ineffective kernel の identity component である.

$K=1$  のとき  $U = G_2 \times \dots \times G_n$ .  $G_1 = D_4, A_3, C_2, B_3$  のいずれか

であり  $G/K = G_1/H_1 = S^4$  となり得ない.  $K=2$  のとき

も同様. 以上より  $G$  は semi-simple である.

$r=1$  のとき;  $G/L = S^3, G/K = S^2, K/L = S^1, L/H = S^1$ .

よって  $G = T^1 \times G_1 \times \dots \times G_n$ ,  $H_0$  は semi-simple であり  $K=1$  である.

が容易にわかる。  $V \in G$  の  $G/L$  への自然な作用の ineffective kernel の identity component とする。  $G = G' \times V$ ,  $L = (L \cap G')_0 \times V$ .

容易に  $G' = A_1 \times A_1$ ,  $A_1$  は  $A_1 \times T^1$  となることを示すことができる。  $G' = A_1 \times A_1$ ,  $A_1$  となるならば、 $\pi$  は  $\pi$  を射影する。  $G' = A_1 \times T^1$  のとき  $G = A_1 \times T^1$ ,  $K = T^1 \times T^1$ ,  $L = T^1$ ,  $H_0 = 1$  が示される。従って  $G = U(2)$  とおけば、 $K = U(1) \times U(1)$ ,  $L = U(1) \times 1$ .  $G$  の  $M$  への作用の ineffective kernel を  $N$  とおけば、 $N \subseteq Z(G) \cap L$ . したがって  $N = 1$ .  $K$  の subgroups  $L_1, L_2$  として  $L$  は  $G$  の中で  $L$  に共役な  $L_1 \cap L_2 = 1$  となるものを示すから  $H = L_1 \cap L_2 = 1$ . 以上により定理の orbit structure に関係する部分の証明が完了した。

次に continuous action として  $G$  の orbit structure をもつものを示す。

orbit space  $M^* \in \{z \in \mathbb{C}^1; |z| \leq 1\}$  と同一視する。  $M_+^* = \{x^* \in M^*; \operatorname{Im} x^* \geq 0\}$ ,  $M_-^* = \{x^* \in M^*; \operatorname{Im} x^* \leq 0\}$  と  $\partial_+$  と cross section

$$\varphi_+ : M_+^* \rightarrow M \quad G_{\varphi_+(x^*)} = \begin{cases} H & |x^*| < 1 \\ L & |x^*| = 1 \end{cases}$$

$$\varphi_- : M_-^* \rightarrow M \quad G_{\varphi_-(x^*)} = \begin{cases} H & |x^*| < 1 \\ L & |x^*| = 1, \operatorname{Re} x^* \neq 0 \\ K & |x^*| = 1, \operatorname{Re} x^* = 0. \end{cases}$$

が存在することを示す。  $A^* = M_+^* \cap M_-^*$  とおくと、

$$x^* \in A^*, |x^*| < 1 \text{ ならば, } \exists f(x^*) \in G; f(x) \varphi_-(x) = \varphi_+(x).$$

即ち continuous map  $f : (-1, 1) \rightarrow G$  が得られる。明らかに  $K$  は

$\lim_{x \rightarrow \pm 1} f(x) \in M_L$  である。homotopy  $h_t : U(2) \rightarrow U(2)$  を  $h_0 = \text{id}$ ,  $h_1$  は  $M_L$  の点  $\frac{1}{2}$  を  $M_L$  に移すものとしてとる。  $f' = h_1 \circ f$  とおくと  $f'$  は  $f$  と homotopic である。homotopy  $h_t \circ f$  により  $\lim_{x \rightarrow \pm 1} (h_t \circ f)(x) \in M_L$  である。従って  $f'$  は  $f' : [-1, 1] \rightarrow G$  であり  $f'(\pm 1) \in M_L$  である。  $f'$  map の  $(-1, 1)$  上の制限は  $f$  と homotopic である。  $f'$  は  $\varphi_-$ ,  $\varphi_+$  の comparison function である。

LEMMA 5.  $f_0, f_1 : [-1, 1] \rightarrow G$  を  $f_i(\pm 1) \in M_L$  であるとする。  $f_0, f_1$  により  $\exists F : [-1, 1] \times I \rightarrow G$  ;  $F(x, t) = f_i(x)$   $i=0, 1$   
 $F(\pm 1, t) \in M_L$   $0 \leq t \leq 1$ .

上の  $f_0, f_1$  は  $S^1 = [-1, 1]/\{\pm 1\} \rightarrow G/M_L = S^2$  を induce する。  $f_0, f_1$  は  $S^1$  上の map である。

LEMMA 5 の  $f_0, f_1$  は homotopic rel.  $\{\pm 1\}$  である。

LEMMA 6.  $f_0, f_1 : [-1, 1] \rightarrow G$ ,  $f_i(\pm 1) \in M_L$  を homotopic rel.  $\{\pm 1\}$  であるとする。  $f_0 \cdot f_1^{-1} : [-1, 1] \rightarrow G$  は constant map である。 homotopic rel.  $\{\pm 1\}$  である。

$f_0, f_1$  の homotopy を  $F : [-1, 1] \times I \rightarrow G$  とすると  $H(x, t) = F(x, t) \cdot F(x, 1)^{-1}$  とおくと  $f_0 \cdot f_1^{-1}$  は constant map  $c : [-1, 1] \rightarrow G : x \mapsto 1$  の homotopy である。

LEMMA 7. cross sections  $(\varphi_-^0, \varphi_+^0)$ ,  $(\varphi_-^1, \varphi_+^1)$  の comparison functions  $\varphi_-$  と  $\varphi_+$  は  $f_0, f_1$  と一致する。  $f_0 \simeq f_1$  rel.  $\{\pm 1\}$  である。

$$\exists \varphi : M_+^* \rightarrow G : \varphi(M_+^* \cap B^*) \subset M_L.$$

$M_+^* \simeq [-1, 1] \times I$  より LEMMA 6 の  $H$  を用いて  $\varphi$  を作れる。

$(\varphi_-^0, \varphi_+^0)$ ,  $(\varphi_-^1, \varphi_+^1)$  は LEMMA 7 の cross sections である。  $\bar{\varphi}_+^1(x) = \varphi(x) \varphi_+^1(x)$  とおくと  $\bar{\varphi}_+^1 : M_+^* \rightarrow M_L$  は cross section であり  $(\varphi_-^1, \bar{\varphi}_+^1)$  の



comparison function は 明らか 1) に  $f_0$  である。

$C_0 = \text{Im } \varphi_-^0 \cup \text{Im } \varphi_+^0$ ,  $C_1 = \text{Im } \varphi_-^1 \cup \text{Im } \varphi_+^1$  と  $2 < \infty$ ,  $C_0, C_1$  は  $M$  の閉集合  
 かつ  $C_0 \cap C_1 = \emptyset$  である。  $\psi: C_0 \rightarrow C_1$  は  $\psi(\varphi_-^0(x)) = \varphi_-^1(x)$ ,  $\psi(\varphi_+^0(x))$   
 $= \varphi_+^1(x)$  と定義すれば  $\psi$  は連続である。

$$\psi(f_0(x) \varphi_-^0(x)) = \psi(\varphi_-^0(x)) = \varphi_-^1(x) = f_0(x) \varphi_-^1(x) = f_0(x) \psi(\varphi_-^0(x))$$

があり 従って、次の結果より 定理の equivalence の部分が示される。

PROPOSITION 8.  $G$  is compact Lie group,  $X_1, X_2 \in \text{Hausdorff } G\text{-spaces}$

$C_i \subset X_i$  is a closed subset of  $X_i$  ( $i=1,2$ ) and  $C_i \neq \emptyset$ .  $\psi: C_1 \rightarrow C_2$  is a map such that

$\psi(gx) = g\psi(x)$  for all  $g \in G, x \in C_1$ . Then  $\psi$  is a homeomorphism if and only if

$\psi$  is a  $G$ -equivariant map  $\hat{\psi}: X_1 \rightarrow X_2$  which is a homeomorphism.

証明  $[B]_1, [B]_2$

REMARK 2. 定理の equivalent が可微分作用とあるが、これは

を示す必要はない。  $n=2$  のとき  $n \geq 16$  の orbit structure が決定する

である。

文献

[B]<sub>1</sub> Bredon, G. E.; Introduction to compact transformation groups. Academic

Press, 1972

[B]<sub>2</sub> Bredon, G. E.; Transformation groups on spheres with two types of orbits,

Topology 3 (1965) 103-113

[U] Uchida, F.; Compact Transformation groups on complex projective spaces

[W] Wang, H. C.; Amer. J. Math. 82 (1960) 698-748.